鹿児島県立埋蔵文化財センター
Kagoshima Prefectural Archaeological Center

埋文だより

第７５号
平成３０年　２月２８日発行

調査中の円形竪穴

床面中央の配石炉

約13,500年前の縄文ヴィーナス発見!!

県道頴娃知覧線（南薩縦貫道：知覧道路）改築事業に伴う発掘調査が行われた牧野遺跡（南九州市知覧町）から，縄文時代草創期では国内で２番目に古い線刻礫（縄文ヴィーナス）が出土しました。この線刻礫は，全長5.5㎝，幅4.8㎝，厚さ4.1㎝の安山岩に縦及びやや斜め方向の線刻がほぼ全周に施されているものです。線刻礫が発見された円形竪穴の中にあった炭化物を年代測定したところ，13,425～13,210年前（縄文時代草創期）であることがわかりました。

この時代の線刻礫としては愛媛県の上黒岩遺跡，鹿児島市の掃除山遺跡に続いて全国で３例目となります。

配石炉や小型集石を有する特異な遺構の中から出土したことから，この線刻礫や遺構が何らかの祭祀行為と関わるものであると考えられます。

目　次

・約13,500年前の縄文ヴィーナス発見!!……１
・発見！発掘速報……２・３
・埋文職員による授業支援……３
・上野原遺跡今昔……４
・発掘現場公開！……５・６

発見！発掘速報

今年度，発掘調査が行われている，県立埋蔵文化財センターと（公財）埋蔵文化財調査センターの発掘調査成果の一部を紹介します。

…県立埋蔵文化財センターの発掘調査

…（公財）鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センターの発掘調査

古くからの文化交流
～六反ヶ丸遺跡（出水市）～

南九州西回り自動車道建設に伴う発掘調査を行っている六反ヶ丸遺跡は，出水平野を流れる米ノ津川右岸の自然堤防上（標高約6ｍ）にあります。ここでは，古墳時代（４世紀頃）の竪穴住居跡や土器・石器が発見されました。土器は熊本県や福岡県で多くみられる丸底甕が出土しており，当時の交流がうかがえます。また，鉄製の鏃も発見されました。

古墳時代の層の下からは，縄文時代後期（約3,500年前）の磨消縄文土器や縄文時代晩期（約3,000年前）の黒川式土器が出土しています。

鉄製の鏃の検出状況

鉄製の鏃（左側が先）

調査中の竪穴住居跡

本丸跡から花十字紋瓦発見！
～鹿児島城跡（鹿児島市）～

花丸十字紋瓦

鹿児島城跡は鹿児島市城山町に所在し，初代薩摩藩主島津家久が1601（慶長６）年から築城を開始した近世城郭跡で，石垣や堀などが県指定史跡となっています。瓦の出土が圧倒的に多く，建物の軒先に葺かれた装飾のある軒丸瓦は，「巴」「牡丹」「桐」等の文様のものが出土しています。

今年度の発掘調査では，「花十字」という文様がついた珍しい軒丸瓦が出土しました。「花十字」はキリシタン墓碑に見られる文様で，長崎ではキリスト教会跡の発掘調査で多くの花十字紋瓦が出土しています。以前，花十字紋瓦は鹿児島城二之丸跡から４点の出土が報告されていますが，本丸跡からは初めて出土しました。ただし，出土した地点は明治初年まで庭園があり，その庭園が解体された後の近代の地層から出土しました。

廃棄された瓦などの出土状況

島津氏とキリスト教の関係は，1549（天文18）年にザビエルの鹿児島上陸や城下に教会と思われる「南蛮僧仮屋」が存在したこと，薩摩川内市京泊にサント・ドミンゴ教会が建設（のちに長崎へ移築）されたことなどからうかがえ，特に島津家久の義母・永俊尼（洗礼名：カタリナ）はキリシタンであったことが知られています。

なぜ本丸跡から花十字紋瓦が出土したのかを考えると，鹿児島のキリシタン史にとって貴重な資料です。

発掘中の調査区

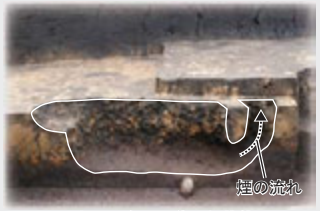
保存食を作った施設!?
～牧山遺跡（鹿屋市）～

東九州自動車道建設に伴う発掘調査を行っている牧山遺跡は，鹿屋市串良町細山田に所在します。

これまでの調査で，本誌73号で紹介した青銅製の鑿をはじめ，いろいろな遺構や遺物が発見されています。今年度の調査では，肉や魚などの燻製を作るために使用されたと考えられる，縄文時代早期（約9,000年前）の連穴土坑と呼ばれる遺構が発見されました。右下写真の中央部の広い場所で火を焚き，その煙を右側の狭い場所に通してそこに吊した肉などを燻したと考えられています。

縄文時代早期の他にも，縄文時代後期・晩期および弥生時代の遺構や遺物が多数見つかっています。

連穴土坑の断面



中の土を取り除いた状態

「本物に触れる」「感動に溢れる」授業を！
～埋文職員による授業支援～

県立埋蔵文化財センターは，本年度から職員が学校に出向いて授業支援を行う「埋文職員による授業支援」を展開しています。教職員と連携を取りながら，地域や児童生徒の実情，教育課程の進度に合わせた授業を小学校３校，高等学校１校で実施しました。本物の土器や石器を見せたり触れさせたりすることで，児童生徒の興味関心をより一層かき立てたようです。

小学校では，本物の縄文土器や石器，地層の剥ぎ取り資料を用いた「鹿児島の縄文時代の特色」と「鹿児島の幕末から明治にかけての動向」のテーマで授業を行いました。鹿児島の縄文時代の土器は，「縄目の文様」ではなく「貝殻の文様」が多いということに気づいたり，「日本の近代化」は鹿児島から始まったことを知ったりすることで，郷土に誇りを持つとともに先人たちへの尊敬と感謝の念を深めたのではないかと思います。また，「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」に授業を行った学校では，保護者の方も一緒に授業に参加していただき，児童と同じ視点で郷土のよさを共有できたと思います。

高等学校では，３年生の日本史を選択している生徒に，「鹿児島における幕末～明治初期の対外政策」のテーマで，発掘調査の状況や成果を織り交ぜながら，小根占原台場跡・天保山砲台跡・敷根火薬製造所跡等の役割などを紹介しました。授業に即した内容で理解しやすく，遺跡のことを知る契機となったという声がありました。

今年度実施した反省を元に，来年度はさらに充実した授業支援ができるようにしていく予定ですので，希望される学校がありましたら埋蔵文化財センターへご連絡ください。

上野原遺跡今昔

④ マツリの時代
～縄文時代早期後葉（約 7,500 年前）～

上野原台地の南東側に位置する地点では，アカホヤ火山灰の下から，日常的に使われた数多くの土器や石器のほか，祈りやマツリに使われたと考えられる土偶，耳飾り，パレット形土製品，異形石器など，当時の精神文化を示す道具類も出土しています。

上野原遺跡で大量に出土した遺物の中の代表的な出土品 767 点は，「南九州における文化の先進性を物語る貴重な学術資料」と高く評価され，平成 10（1998）年 6 月 30 日に国の重要文化財に指定されました。

縄文時代早期後葉の出土遺物：重要文化財

九州最古の土偶

土偶は縄文時代早期には九州地方では使われておらず，後期になって西日本からも伝えられたと考えられてきました。しかし，上野原遺跡からは縄文時代早期後葉の土偶が出土しました。これは平成８（1996）年に三重県松阪市の粥見井尻遺跡から縄文時代草創期の土偶２点が見つかるまで，西日本最古の土偶として注目を浴びました。

土製耳飾り

上野原遺跡からは，土製の耳飾りが 28 点出土しています。耳たぶに穴を空けてピアスのように付けるものです。大きいものでは，直径 12 ㎝，重さ 100 g にもなるものも出土しています。耳飾りは，縄文時代中期（約 4,500 年前）に東日本で発達しますが，上野原遺跡では，縄文時代早期後葉（約 7,500 年前）の耳飾りが確認され，その文化の先進性が注目されています。

縄文時代早期後葉の土製耳飾りが見つかっている遺跡

	遺跡名	市町村
1	石坂上遺跡	南九州市
2	下田遺跡	志布志市
3	西垂水遺跡	南九州市
4	石打遺跡	湧水町
5	上野原遺跡	霧島市
6	出水平遺跡	曽於市
7	城ヶ尾遺跡	霧島市
8	三角山Ⅱ遺跡	中種子町
9	横堀遺跡	志布志市
10	堂園平遺跡	日置市
11	諏訪前遺跡	南さつま市
12	陣之尾遺跡	伊佐市
13	宮ヶ原遺跡	曽於市
14	鳴野原B遺跡	南九州市
15	山口遺跡	薩摩川内市
16	小牧古墳群	志布志市

今，県内では，この時期の耳飾り（耳栓状土製品を含む）が 16 遺跡 44 例確認されています。しかし，１つの遺跡から出土する数は少なく，数や大きさなど上野原遺跡に勝るものはありません。

異形土製品

上野原遺跡からは，三角形や分銅形など不思議な形をした土製品が数多く出土しています。中でも三角形の形をしたパレット形をしたものは，片面が皿状に窪み，長辺に斜めに貫通させた穴を１列に配列しています。今でも，このような異形土製品の出土例は全国的にも珍しく，その用途もはっきりわかっていません。

遺跡公開！ 現地説明会開催

川久保遺跡

東九州自動車道建設に伴う発掘調査が進む川久保遺跡（鹿屋市細山田）で，11 月 19 日（日）に現地説明会が開催されました。この日は天気にも恵まれ，日曜日の午後からという日程にもかかわらず 300 名を超える見学者が訪れ，おおいに賑わいました。

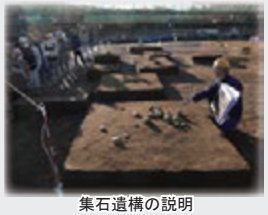
川久保遺跡は，これまでの調査で多くの発見がありましたが，今年度も新たな遺構・遺物が多数発見されています。今回の現地説明会では，旧石器時代，縄文時代早期，古墳時代を中心に解説しました。

旧石器時代の遺物の出土状況

展示された畦原型細石刃核

旧石器時代では，畦原型細石刃核が県内最多の 30 点発見されています。これは，細石刃というカミソリの刃のような小さな石器を剥ぎ取るために丸い石（円礫）を２分割したものです。旧石器時代を代表する南九州独自のもので宮崎県南部を中心に発見されています。

縄文時代早期では，調理施設と考えられている集石遺構が比較的狭い範囲に多数発見されています。集石遺構は，焼いた石の上に葉などで包んだ魚や肉などを置き，さらにその上から土をかぶせて蒸焼き料理をしていた場所と考えられています。説明の中で，実際にこの方法で食材を調理した体験も紹介され，はるか昔の情景をよりリアルに思い浮かべることができました。


集石遺構の説明

集石遺構に触れました！

古墳時代の竪穴住居跡

間近で見る勾玉

古墳時代の遺構として，多くの竪穴住居跡が発見されていますが，複数の住居跡が重なっている（切り合い）状態のものがありました。現時点では，４軒分と想定していますが，同じ場所に何回か建てなおしたと考えられます。また，別の竪穴住居跡では発見された勾玉を手のひらに載せて紹介していて，間近で古代の息吹を感じるようでした。

この他にも，発掘作業の進め方や集石遺構の実測方法，地層と年代の関係，出土した遺物の展示など，遺跡の広さに比例するような盛りだくさんの説明があり，充実した時間になりました。

川久保遺跡の発掘調査は平成 29 年度で終了し，来年度から報告書作成のための整理作業が始まります。その過程で，発掘調査とは違う視点からの新たな発見が出てくるかもしれません。

実測方法の説明

展示遺物の説明

地層の説明

甕の破片

遺跡公開！現地説明会開催

中津野遺跡

国道270号（宮崎バイパス）改築工事に伴う発掘調査が進められている中津野遺跡（南さつま市金峰町）で，平成29年11月25日（土）に現地説明会が開催されました。当日は，風の無い穏やかな一日で，約120名の見学者が遺跡を訪れ，県内では珍しい低湿地の発掘風景や土器・木製品などの展示物に見入っていました。

遺跡の概要の説明

多くの杭が出土した地点

杭列（中世～近世）の説明

低湿地の調査

中津野遺跡の調査区は，南北に約900mにもおよび，これまでに旧石器時代から江戸時代までの様々な遺構･遺物が発見されています。特に調査区北側の低湿地部分では，弥生時代から古墳時代にかけての木製農具など，県内では例が少ない注目すべき遺物が見られます。湿地では，木製品の腐食があまり進まず比較的良好な状態で保存されます。そのため，柄を取り付けるために開けた穴がしっかり残っていた鍬状の農具や，まだまだ使えそうなくらい硬い杭もありました。低湿地の見学場所では，水の湧く軟泥の中に林立する杭を取り上げる作業をしていましたが，丁寧に泥を取り除き慎重に取り上げるのはかなりの重労働です。

低地部と低湿地部の境界では，縄文時代後期（約4,000年前）の土器が集中して発見されました。土には植物の茎や葉が多量に含まれており，当時の周辺環境は葦などの植物が群生する湿地帯であったようです。これらの土器は破損して廃棄されたものと考えられますが，破片が大きく，完全に復元できたものも多いことから，何か特別な理由でこの場所に置かれた可能性があります。

低地部の説明

低地部では，弥生時代の竪穴住居跡が発見されています。あまり大きな規模ではありませんが，一体何人が暮らしていたのか，まわりから発見された土器や石器とはどのような関連があるのか想像が膨らみます。

この他にも，軽石製品や石鏃や石斧などの石器，溝状遺構，柱穴なども多数発見されており，遺物の一部は土器や木製品とともに展示されており，間近に観察することができました。また，発見された土器等を水で洗ったり分類記号を書き込んだりする整理作業も発掘作業と同時に進められており，そのようすも見学することができました。

完形土器に興味津々

展示室も盛況

土器の水洗いを体験中

弥生時代の竪穴住居跡

当センターの見学は，土曜・日曜・祝日・年末年始を除き，毎日午前９時～午後５時まで，入館料は無料です。

検索キーワード　上野原縄文の森　検索　クリック

なお，当センターのホームページは，鹿児島県（http://www.pref.kagoshima.jp/）または，上野原縄文の森(http://www.jomon-no-mori.jp)からお入りください。

埋文だより　第75号
発　行　日　平成30年2月28日
編集・発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL:http://www.jomon-no-mori.jp
E-mail:maibun@jomon-no-mori.jp